

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策I-1-1 県内企業の経営・技術革新の支援
---------	-------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	林業課木材振興室長 大國 敏彦	電話番号	0852-22-5156
----------	-----------------	------	--------------

事務事業の名称	中海水中貯木場管理運営		
目的	(1) 対象	合板製造業	
	(2) 意図	合板用原木の安定確保を図るため、貯木場の適切な管理運営を目指す。	
事業概要	中海水中貯木場の適切な管理運営をするために、巡視活動、施設の修繕、水質・湖底調査などを行う。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	貯木場の利用率	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		15.00	10.00	10.00	10.00	
式・定義	延べ利用面積 (ha・月) / (経営面積ha×12月)		実績値	15.00	10.00	0.00	0.00		%
			達成率		66.70	0.00	0.00		%
指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位		
								目標値	
式・定義			実績値	0.00	0.00	0.00		%	
			達成率		0.00	0.00		%	

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費 (b) (千円)	4,063	4,109
うち一般財源 (千円)	4,063	4,109

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

貯木場利用が減少する中で、可能な限り施設の維持・修繕コストの縮減に努めながら施設を運営した。将来的な再開に備え、河川占用許可を継続している。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

維持・修繕コストの縮減

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
利用収入をもって施設を運営することは困難となっている。ファイ・フローター等の貯木施設の流出が頻繁に発生している。
- ②困っている状況が発生している「原因」
南洋からの原木輸入が中断し、貯木場利用がなかった。ファイ・フローター等の貯木施設の老朽化が激しい。
- ③原因を解消するための「課題」
貯木場利用の回復は見込めない状況にある。流出の危険性の高まったファイ・フローター等の撤去。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

今後の貯木場運営のあり方を検討する。ファイ・フローター等の撤去を検討する。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）